

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中濃特別支援学校

学校番号

114

自己評価

学校教育目標	児童生徒一人一人の自立や社会参加、個に応じた就労の実現を目指し、自分のよさを生かして必要な力を培い、自分らしく豊かに生きる力を育成する
--------	---

【小学部】

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・小学部の教育活動について連絡帳や通信、懇談を通して詳しく伝えたことは、保護者から高評価を得ている。 ・地域と連携した特色ある活動に十分取り組めた。交流学习が児童にとってよりよいものになっていることをさらに発信していく。 ・様々な集団活動を通して、主体性や協調性を育むことができた。
今年度の重点目標	・個々の興味・関心に基づき、仲間と関わり合いながら集団の中で生き生きと過ごし、自信をもってできる力を育てる。 ・自ら挨拶し、仲間と関わり仲良く活動する。 ・課題に最後まで取り組み、丈夫な体を作る。 ・様々な活動に挑戦し、自らできることを増やす。
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○興味関心を高め、他者と関わりながら成長できるよう体験的な活動を意図的、計画的に行った。そのため主体性並びに、仲間、地域とつながり関わる力を育めた。 ○一人一人が自己表現できる場面や責任をもって取り組める活動を位置付けチームで支援することにより自己有用感を育むことができた。 ●教育活動全体の系統性を明確にしていく。 ●働き方改革の点からも行事の精選を行うとともに活動の質を高める。
評価の視点	総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分	A B C D
来年度に向けての改善方策案	・指導と評価の年間計画の見直しと、主任会などを通じた系統性の確認。 ・反省をもとに必要な行事や活動を精選。 ・組織的、計画的に教育活動を進めるための体系づくり。 ・適切なアセスメントをもとにしたグループ編成 ・地域、外部との連携を通じた特色ある教育活動の実現

【中学部】

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「進路指導」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・体験的な活動の実践については高評価だったため、今後も生徒が主体性を引き出すことができるような学習を計画し、実践していく。 ・生徒一人一人のよさや可能性を伸ばせるような指導支援に対しては、学年間だけではなく、縦割りで行う学習グループで、職員の連携や話し合いをより深めながら進めていく必要がある。 ・地域と連携した特色ある教育活動については、地域の中学校だけではなく、目的を明確にしながら近隣の学校、地域の団体とも交流していきたい。
今年度の重点目標	小学部（小学校）で積み上げた基礎・基本をもとに、自分のよさを生かしながら仲間と共に学び、生活することや働くために必要な力を育てる。

	・挨拶や自分の気持ち、考えを言葉や表情、身振り等自分なりの方法で豊かに伝える。 ・自分や周りの人の心と体を大切にでき、健康で安心安全な生活を送る。 ・生活場面や状況に応じた役割や責任を自覚し、あきらめずに行動し、やりきるための基礎的な知識や技能を身に付ける。
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○今後も中学部卒業後を見据え、生徒が主体的に取り組むことができる場や教材を準備し、目的に合わせた形態や場所等を設定する。また、年間を見通して、個に応じた指導支援を行う。 ○作業学習における働くために身に付けさせたい力と、高等部への系統性を確認して、来年度から2時間×週3回実施することとする。 ●各授業や個に応じた支援等について、学年間や小学部、高等部との系統性をより意識し、共通理解を図っていく。
評価の視点	総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分	A B C D
来年度に向けての改善方策案	・部会や学年、グループ間で個人目標や各授業の目標等を共通理解する機会を積み重ね、より個に応じた指導や支援を検討していく。 ・目的を明確にしながら、交流希望団体の積極的な受け入れや近隣の学校との交流の可能性を探っていく。

【高等部】

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「進路指導」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・保護者との情報共有や連携、生徒が生き生きと授業に取り組んでいることについて高評価であった。日々の連絡帳や電話、懇談などを通じた細やかな対応や、体験的な活動を取り入れた学習により生徒が充実感をもち、それが保護者に伝わったと考えている。 ・地域など外部と連携した特色ある教育の一層の推進とその学習活動の成果を保護者や地域等に積極的に発信していくことが、今後の課題である。
今年度の重点目標	・中学部(中学校)で培った能力をもとに、生涯にわたり、自分らしく豊かに生きられるよう、働く力を身に付け、社会生活に必要な力を育てる ・進んで挨拶ややり取りをし、状況に応じた言葉遣いができ、望ましい人間関係を広げる。 ・健康で安心安全な生活に必要な知識と技能を身に付け、自らの健康管理に生かす。 ・自らの社会的役割や主権者としての自覚をもち、責任ある行動ができ、社会生活に必要な知識と技能を身に付け、仲間と協力してやり遂げようとする。
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○生徒情報や効果的な指導・支援方法について高等部全体で共有し、チームとして生徒の指導・支援にあたることができた。 ○作業製品の外部への販売活動を充実させ、生徒が生き生きと販売する姿が多く見られた。 ●地域の特産物である美濃和紙を取り入れた活動を継続的に行うことができたが、その成果についての保護者や地域への発信が不十分であった。
評価の視点	総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分	A B C D

来年度に向けての改善方策案	・地域の学校（大学や高等学校、特別支援学校等）と共に学び合えるような活動や地域の人材資源を活用するような活動の実現について検討し、具体的な計画を立案して本校高等部の特色ある教育活動のひとつとして位置付ける。 ・各活動を情報発信の視点をもって計画立案し、より効果的な情報発信の方法を検討していく。
---------------	--

【教務部】

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「保護者、地域との連携」	
現状及びアンケートの結果分析等	・学校と地域との交流や関係機関との連携について、保護者にはわかりにくいなどの否定的な意見が多かった。学校祭などの行事活動において、地域との関わりや校内では部をまたいだ児童生徒の関わりの工夫について検討が必要である。 ・ホームページを活用した教育活動の発信において、保護者には「地域との連携」の捉え方に個人差がある。学校が地域と連携した教育活動を行っていることが分かり易く伝わるような発信の工夫が必要である。	
今年度の重点目標	・見通しをもった教育活動の計画及び実施に向け、年間スケジュールの提示や適時の情報発信を行う。 ・卒業後を見通した継続的な教育課程の編成に向け、検証、検討、改善を図る。 ・個別の指導計画における資質・能力の三つの柱に基づいた目標の設定、三つの観点を踏まえた評価の充実を図る。 ・ICT機器を使用して、学習への興味・関心を高め、自分から進んで学ぶことができる授業作りを行う。 ・タブレット端末及びノートパソコンを活用する機会を増やし、自分で操作できる能力を養う。	
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○教科領域会において、昨年度の反省を基に自立活動・国数・美術における授業内容や教材の工夫などについて、学部を超えたグルーピングにより授業における成果や課題を共有することができた。 ○児童生徒の的確な実態把握と効果的な学習指導を進めるため、次年度前期の個別の指導計画を、全学部において前年度末に作成するようにした。 ●今年度の学校祭では外部との積極的な連携や交流は行っていない。一方で卒業生や関係者（当校への転入学を希望する方やその学校職員、卒業後の進路先、放課後等デイサービス等）より、学校祭への参加を希望する声がある。	
評価の視点		総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・領域教科会において、例えばTeamsのチャットなどを活用して、教科領域会の同グループの縦割りの教員同士が継続的に相談しやすい環境を設定する。 ・ホームページ掲載時に「地域との連携」という項目タグを付けるなどカテゴリーを分類し、保護者や外部の方にとって分かり易い発信に努める。 ・学校祭において、「全校実施」「部単独での実施」など、実施規模も含めて検討していく。また、地域との効果的な連携方法について検討を進める。	

【研修支援部】

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「研修（資質向上の取組）」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・外部評価の結果から、「教育活動・学習活動」については概ね高評価を得た。主題研究を柱とした児童生徒理解や支援方法について保護者に一定の理解を得られていると考える。 ・前年度に教職員への研修ニーズ調査を行い、意向を踏まえた研修を提供している。 ・相手校と連携し居住地校交流に取り組んでいるが、自分の子ども以外のことや学校がどう取り組んでいるかについて保護者に伝わり切れていない現状がある。懇談時は他にも確認事項が多数あり、時間を取れない現状がある。 ・個別の児童生徒の案件に対し、必要に応じて他分掌や地域他機関と連携してチームで支援に取り組んでいることに一定の理解を得られている。
今年度の重点目標	・育てたい資質・能力を確実に身に付けるための授業づくり ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○全校同じテーマのもと、目標達成に向けた具体的な取組に対して評価を行い、各グループで様々な活発な意見が挙がり、授業改善につながった。 ○教職員からのアンケート結果から当校の研修についての満足度が、5段階評価で4.1を得ることができた。 ●多くの研修が夏季休業中に集中した。ゆとりをもった研修ができるように日程の配慮が必要である。 ●個別の教育支援計画の新様式における書き方や統一事項について年度当初に周知ができず、評価時での訂正を依頼することになった。
評価の視点	総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・教職員のニーズや当校の課題を加味した研修を精選し、教職員がゆとりをもって研修に参加できるような体制づくりをする。 ・年度当初に個別の教育支援計画の年間スケジュールを提示し、作成の意義や統一事項を周知し、懇談時に保護者と充実した話し合いや情報共有ができるようにする。

【生活支援部】

評価する領域・分野	「生徒指導（教育相談）」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・保護者（地域）が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気である。→「あまりあてはまらない」の回答が多かった。相談の窓口や、相談方法について保護者に伝わりづらかったことが考えられる。 ・学校は、体罰防止に努め、児童生徒への指導に当たり、いかなる場合も体罰を行っていない。→「分からない」の回答が多かった。PTA総会や様々な機会を捉え、保護者への丁寧な説明が必要である。 ・学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。→「分からない」の回答が多かった。積極的な発信が不足している。 ・教育相談では、保護者や担任へのアンケートを導入した。保護者からの意見を吸い上げ、スクールカウンセラーへの相談に繋げるきっかけにもなった。

	・学校祭をはじめ、コロナ禍の名残で、全校で集まる機会が減少している現状を変えていく必要がある。
今年度の重点目標	・信頼と愛情を基盤とした児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。 ・主体的によりよい人間関係を形成していく集団活動を通して、自己指導力を育てる指導・援助を推進する。 ・全教職員の共通理解のもと、協力体制と指導体制を整備するとともに、家庭や地域及び関係機関等との連携・協力を図り、開かれた生徒指導を推進する。
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○学校生活アンケートをWeb化や実施回数を増やすことで、多くの相談について教育相談担当者をはじめ、担任以外の職員やスクールカウンセラーと共有することができ、児童生徒理解に繋がった。 ●各部と生徒指導主事と情報を共有し、早期対応するシステムが課題となった。 ●学校祭をはじめ学校行事等で児童生徒会が中心となって活躍できる場を設定する。
評価の視点	総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分	A B C D
来年度に向けての改善方策案	・教育相談の一層の充実を図るために、教育相談の内容や取組状況等をホームページに掲載したり、PTA総会や通信等で伝えていく。 ・組織的に問題行動を未然防止するために、随時生徒指導主事と情報共有を図る。また、(小中高)学部会での児童生徒の情報共有が活発に行われるように働きかける。 ・活性化に向けて、校内では児童生徒会中心の学校祭運営を目指し、教務部と連携する。また、近隣学校とも協力し、MSリーダーズや児童生徒会等が活躍できる場を探りたい。

【進路支援部】

評価する領域・分野	「進路指導」「保護者・地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・企業や福祉事業所と連携し、高等部1年生から職場実習(企業内作業学習、就業体験、職場実習)を行い、実際の職場で働く体験を通して、社会で求められる力を身に付け、卒業後の就労に結び付けることができている。 ・小学部段階から児童生徒の将来像をイメージできるように、「関市・美濃市障がい福祉サービス事業所説明会」や「進路講演会」を実施した。学年が上がるにつれ、参加率が高まる傾向にあり、小学部や中学部の保護者の参加が増えるような工夫が必要である。 ・保護者アンケート結果では、「学校が地域の企業や福祉事業所との連携」について「わからない」という回答が多く、小学部や中学部の保護者への進路に関わる取組の情報提供が不十分であった。
今年度の重点目標	・社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力・態度を育てる。 ・発育や発達に応じたキャリア教育実践に向けて、家庭及び地域や福祉、労働等関係機関との連携を十分に図る。 ・関係機関と連携し、児童生徒の発達段階に応じて、将来を見通して必要となるキャリア支援の在り方を系統立てて進める。 ・児童生徒一人一人が集団活動の中で役割をもち、「誰かの役に立つ」経験ができるような環境づくりに努める。

重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○地域の企業や福祉事業所、ハローワーク等の関係機関と連携し、高等部各学年で職場実習を行ったことで、生徒が実体験から学び、働くことへの意識向上や自分の課題克服に取り組む姿に繋がった。 ○職員向けの進路研修会を実施し、職員が児童生徒の将来に見通しをもち、児童生徒の発達段階に応じたキャリア支援が実践できるようにした。 ●小学部段階からのキャリア支援の必要性を保護者に周知し、家庭と連携を図りながら、児童生徒の発達段階に応じたキャリア支援を実践する必要がある。
評価の視点	総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・キャリア支援の必要性を理解し、小学部段階から家庭と連携した支援ができるように、キャリアパスポートを活用したキャリア支援に取り組む。 ・障がい福祉サービス事業所説明会や進路講演会において、多くの保護者に参加してもらえるように、進路だよりやホームページを活用した情報発信方法を工夫する。

【健康安全部】

評価する領域・分野	「保健管理」「安全管理」「教育環境整備」
現状及びアンケートの結果分析等	1 9「学校は、学校医や学校歯科医と常に連携を図って、児童生徒の健康管理に気を配っている。」 ・眼科検診等の各種検診と結果の通知は、「学校保健安全法」に位置付けられていることをお便り等で保護者に周知する。 2 1「学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。」 ・持参非常食は空白期間があってはならないため、始業式当日の持参を継続する。 ・気象による安全確保と学びの保障を鑑みつつ、適切なタイミングと内容で注意喚起等の対応を継続する。
今年度の重点目標	・健康で安全な生活を営む態度と能力を育てる ・自らの健康課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、健康的な生活習慣の確立に向けて、運動と食育の推進、感染症等の予防に努める。 ・小学部から高等部までの系統性のある性教育の充実を図る。
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○保健指導（歯科・肥満・感染症対策）は新型コロナの5類移行により、養護教諭や各担当と業務を連携し確認しながら計画的に実施できた。 ○担当者と協力し栄養教諭の専門性を活かすことで、「食に関する指導の全体計画①②」を作成し、各部・学年で「食に関する指導」を行った。 ○職員研修会によって、実態に応じた性教育の実践を積み重ねられた。 ●地域資源を活用した、防災の取組や山の活動の整備を行う。
評価の視点	総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・近隣の学校等と連携した帰宅確認訓練の実施を模索する。 ・職員作業に山の整備を組込むことで、登山道の状況把握を深め、改善点等を浮彫にすることで外部資源への依頼のポイントを明確にする。

【渉外部】

評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」「情報提供」	
現状及びアンケートの結果分析等	・「学校は地域に対し、新聞、地域の広報誌やホームページ等を通して広く教育活動を知らせている。」についての評価は「分からない」が多かったが、地域の銀行のロビー等で作品展示会の開催を継続することで、本校の教育活動を紹介し、また開催についてはホームページで案内をする。 ・「学校は現場実習、校内作業実習、職場見学等において、地域の企業や福祉施設等と連携を図り、きめ細かい就労支援を行っている。」についても、保護者を対象にPTA主催で施設見学を継続することで、進路に向けての見聞を広げる機会を提供していく。	
今年度の重点目標	健康で安心安全な生活を送ることができる環境づくり ・参集によるPTA活動を推進し、方法を工夫して積極的な参加を促し保護者同士のつながりを図る。 ・各委員会におけるPTA事業では、情報が共有できるよう保護者のニーズに対応した情報発信ができるように支援する。 ・今後のPTA活動について、保護者のニーズを集約し見直しを図る。	
重点目標の達成とアンケート結果に基づいた改善の取組の成果と課題 成果＝○ 課題＝●	○PTA事業に関して、保護者にアンケート実施し、意見や要望を吸い上げて本部役員間で共有した。その上で、PTA組織や事業の在り方を見直し、スリム化することができた。 ●保護者自身がPTA活動に自発的に参加できるようなPTA活動を目指す。	
評価の視点		総合評価
評価にあたっては以下の基準を参考とする。 A＝十分達成した、 B＝おおむね達成した、 C＝やや不十分、 D＝不十分		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・PTA組織から研修、行事、防災の3つの各専門委員会と専門委員長の選出をやめ、これまで各専門委員会で企画運営していた事業は、本部役員会で行う。 ・参加可能な保護者のボランティアを募ることで、「できる人が、できる時に、できる事をする」という考えのもとでPTA活動を行う。 ・PTA活動への保護者の負担感を減らし、保護者の気持ちに余裕を生み出せるよう本部役員会で協議する。	

学校関係者評価 (令和7年2月26日実施学校運営協議会より)

意見・要望・評価等 ※この欄は、学校運営協議会の内容から関係部分を記載する。 ・
--